



共同代表:島 042-327-9330 深澤 042-341-7524 e-mail : kodaira\_kankyo@jcom.zaq.ne.jp

## ごみ有料化1年後に、 新型コロナウイルスがやってきて..

去年6月に本誌「わおん」87号で、4月に始まったごみの有料化・戸別収集の状況を取材しました。収集業者の方にお話を聞いて、ご苦労の様子や市民が気をつけるべきことがわかったので、1年後の様子をまた伺ってきました。なにしろ、有料化1年後に思ってもみないコロナ騒ぎで、清掃員の感染リスク、家ごもり生活で断捨離に励み粗大ゴミが激増、といったニュースも報道されていましたので。

資源循環課に確認したところ、3月までの一年間で、以下の通りごみ量は大きく減りましたが(6月20日の市報に掲載)、コロナ以降は再び全体的に増え、特に燃やさないごみ、次に粗大ごみが増え、一時は可燃性資源、特に布類の処理が追いつかず排出抑制のお願いも出されたそうです。服を整理するよい機会だったのでしょね..

<2019年4月有料化後1年間の前年比ごみ量>

全体:約20%・7,200トン減少↓

燃やすごみ:約11%・3,100トン減少↓

燃やさないごみ:約74%・4,000トン減少↓↓

ただし、プラスチック製容器包装:約1,000トンになり、2倍以上に増加↑↑

8月末、上水本町の高杉商事を訪ね、業務部副部長・三平さんと業務一課課長代理・川辺さんにお話を伺いました。

### \*収集ごみの現状

有料化先行市で業務を担った経験からわかっていたが、有料化による混乱は半年ぐらいで落ち着いた。ただ、容器包装プラの分別はむずかしく、年代を問わず警告シールを貼られるお宅が多い。月1回ぐらいだが、「なぜ収集しない!?!」とクレームを受け直接説明に行くこともある。ビン、カン、フライパン、ハンマー(!)が混ざっていることもあり、小平・武蔵村山・東大和3市共同の資源物中間処理施設(スリーハーモニー)から「小平は汚い」と怒られる。

問題は分別の基準で、小平市は基本、「プラマークがついているものはプラスチック製容器包装」としているが、メーカーによっては、製品プラでも、たとえばCDケース、ハンガー、プリンター等でプラマークをつけているものがある。仕方がないのでそういうものは手選別で除き、別途、熱回収などで資源化している。国から製品プラもリサイクルしていくという方針が示されているので、いずれ区別の必要がなくなるのでは。(私たちが製品プラは早く資源化するべきだと思います。)

### \*コロナの影響

自粛生活に入った3月から4月にかけて、ごみは年末年始と同じぐらい、1、5~2倍に増えたが、今は通常に戻りつつある。粗大ごみはまだ多め。マレーシアへの船便が止まり、滞留していた古着も今は運べるようになり、収集可能になった。宅配が増えたので、段ボールも増加した。

### 目次

ごみ有料化1年後に、新型コロナウイルスがやってきて... 1・2

「エコまるくん」見学記... 3

コラム「畑部会仲町班」... 4

会計報告... 4

感染リスクを減らすため勤務時間をずらすなど3密にならないよう工夫し、幸い市内で収集業者に感染者は出ていない。ただ、戸別収集になってから清掃員の走る距離が増え、この猛暑だったので何人が軽い熱中症になった。収集の際は、人と話す時だけマスクを着けている。

今のところ全従業員にPCR検査をすることは不可能なので、せめてインフルエンザの予防接種を、会社負担で全従業員に事業所で実施しようかと考えている。

\*ごみ出しで注意してほしいこと

雨の時など濡れないよう軒下に移す方がいるが、排出場所を変えないで、いつも決まった場所に出してほしい。今は紙の資源が濡れてもリサイクル可能なので、ため込まないで出してもらった方がいい。

もちろん、上記のような分別の間違いをしないように気をつける、そもそもごみを減らす、ということが大事ですね。高杉商事さん、ありがとうございました！

出したごみがどのように運ばれ、処理されるのか、ということがわかり、想像できるようになると、細かい分別への理解、納得、ごみを減らそう、というモチベーションも上がるのではないのでしょうか。断捨離の後のリバウンドに気をつけましょう（ああ、うちの断捨離は当分先だ・・）。

まだコロナの心配が続く中、ごみを収集してくださる皆さんのご尽力に心から感謝します！

(深澤)

## ごみ焼却施設、いよいよ建て替え その間ごみは一部他市へ!?

5月末に小平・村山・大和衛生組合（中島町）の発行する「えんとつ」が全戸配布され、ごみ焼却施設建て替えの全容が決定したことがわかりました。この建て替えの問題に関しては、当会から2016年に「公募市民を入れた施設検討委員会の設置」を求める陳情や要請を行い、やっと途中から「新ごみ焼却施設の整備に係る懇談会」に各市1名の公募市民が参加することになり、私もその公募市民の一人として意見を出した、という経緯があります。2018年2月の「新ごみ焼却施設整備基本計画」策定後に、さらに具体的な検討を進める際も市民参加をはかるよう求めましたが、全く聞き入れられませんでした。武蔵野市のような施設建設の前後まで一貫した市民参加は夢のまた夢・・

5月の組合議会で可決された契約では、ストーカ式焼却炉で236t/日、運営まで一括受注したのは川崎重工業グループ、金額は約462億円となっています。イメージ図は緑豊かで、玉川上水と野火止用水の両方から自由に施設にアクセス、見学できる予定ということで、そこは要望してきた通りです。

今年度中に3号炉の解体が始まると、残りの4、5号炉だけではごみの一部が処理しきれなくなり、他の市町村に可燃ごみ焼却をお願いすることになります。「えんとつ」には「補修・点検等で4・5号ごみ焼却施設を停止する期間」だけ頼むようなことが書いてありますが、これはゴマカシ。2025年10月の新焼却施設稼働まで、3市の市民は相当なごみ減量にがんばらないと、他市への高いごみ処理委託費ののしかかることになります。他市にも迷惑をかけます。もっと真剣にごみ減量を呼びかけるべきではないでしょうか！（深澤）



新ごみ焼却施設のイメージ図

## エコまるくん見学記

6月22日(月)、降りしきる雨の中、花小金井の東部公園内に設置された「エコまるくん」というエコトイレの見学に行った。

私たちに説明を下されたのは、(株)エコまるくん社員で小平市在住の細野さん。「エコまるくん」の開発に胸を張る。

「エコまるくん」は、ひとつのコンテナの中で水洗トイレに流された水と汚物を分離して浄化し、再利用ができるという優れもの。実際に見た感じでもそれほど大きくはなく(底辺2m×2m30cm)、屋根にはソーラーパネルが設置され、トイレの裏にある浄化装置を動かす際に利用されている(天候不順の場合は、発電機でも動かせる)。

地震大国の日本において、避難所などでのトイレ問題はかなり深刻だ。水道が止まり、さらに下水道管も破損して流せなくなれば、水洗トイレは使えなくなる。しかし「エコまるくん」があれば、この問題は解決する。



「エコまるくん」の浄化システムの基は、ヤーコン(南米アンデス原産のキク科のサツマイモに似た根菜)を特殊堆肥と醗酵させたオリゴ糖醗酵濾材。秋田県立大学との共同研究で、ヤーコンはアンモニア濃度を大幅に減少させることが分かったのだそう。

経済産業省「中小企業ものづくり基盤技術高度化事業」の「バイオ技術」部門において「特定ものづくり研究開発」の認定を受けた(特定研究開発等計画認定番号 東北1707008)。

また、環境省より依頼を受けて、秋田大学との共同研究で、山岳地域トイレで電力が無くても汚水を処理するシステムを開発し、評価も得ているとの事。

小平市でも、いつ地震災害に見舞われるかわからないご時世、各公園や学校にこのエコまるくんを設置しておけば、いざという時にとっても心強いと思うのだが、1基(見学させて頂いたタイプ=トイレ2室)450万円を高いと見るか安いと見るか?

小平市長は見学に来たもののあまり関心をもたなかったようだが、実際に震災に見舞われた時のことを考えると、私はこのトイレをある程度広範囲に配置しておく必要があるのではないかと思います。(島)

## 「畑部会 仲町班」を解散して最後に思うこと

今年3月、「小平・環境の会」の「畑部会 仲町班」は、とうとう解散となった。

会員が年ごとに高齢化や本業多忙などの理由で抜け落ち、最後の一年は女性二人になった。良く頑張ったと思うけれど、一人は87歳、かなり若いもう一人は持病持ち。農作業で一番大切な土地の耕し作業がどうにも無理になって、あきらめる事にした。作物には、土・水・太陽光さえあればと言っても、それなりの条件を整えねばどうしようもない。せっかく蒔いた種子、植え込んだ苗、土にだって「手間」と「愛情」をそそげなかった事に、申し訳なさいっぱいで終わってしまった。

振り返れば、17年も前、「資源循環型の町づくり」の理念を掲げて、みずみずしい「体力」と「情熱」を持って発足した畑部会員は、11人もいた。幸運なことに、寛大な地主様の好意で広い農地、宅地の庭、道具置き場まで使わせて頂き、その上、ご夫婦で農作業の指導やお茶のお世話までして頂いた。更に毎年、堆肥作り用の落ち葉集めの作業に小金井公園まで軽トラを2往復して頂いた。会員以外も参加の収穫祭の大イベントも忘れられない！

8年後、地主様のご都合で土地を返却。その直後に3.11の福島原発事故が起こり、堆肥作りが不可能となった。以来、畑部会の畑を求めて流浪の身となり、鈴木市民菜園⇒仲町市民菜園⇒後に並行して農業委員の淵野先生のご厚意により「小川町の小山さんの農地」のお手伝い仲間に入れて頂いた。

小川町の農地は広く、道具置き場があり、堆肥置き場も作って頂き、大変好条件。しかし、遠くて通いきれない会員数名が「仲町班」に残る運命となった。その後、小川町の畑も環境の会からは独立。とうとう、環境の会の畑部会は、消滅することとなった。

でも、土いじりは人生において代え難い経験となりました。余談となりますが、小川町の畑は、独立した後もしっかり活動中です。

私の最後のお願いは、あなたさまの体力・気力をどうぞこの畑に向けてみて頂けたらと思います  
(岩谷)

小平・環境の会 2019年度会計報告

項目	収入	支出	残高
前年度繰越金(現金)	57,231		57,231
〃 (郵貯口座)	200,000		257,231
〃 (振り替え口座)	71,196		328,427
会費収入	54,000		382,427
寄附金収入	27,863		410,290
その他収入	45,500		455,790
ネットワーク交流事業		1,000	454,790
ごみ削減のための提言活動		21,942	432,848
環境学習事業		350	432,498
わおん発行費		39,339	393,159
管理費		610	392,549
計	455,790	63,241	392,549

今年1月のプラスチックの学習会は東京都から講師助成を受けたので、茶菓子代しか掛かりませんでした。それと、保険加入を失念し管理費が少額になってしまいました。

3月以降コロナの影響でほとんど活動ができず、残念です。(島)

先日、JAで「小平市学校給食地場産農産物利用促進に向けた意見交換会」がありました。そこでの報告によると、平成5年から27年の23年間で、市内の生産緑地面積は26%減りました。そんな中でも、学校給食での地場産野菜の利用率は昨年度31%に達し、都内随一のこと。小平農業を応援しよう！(M)

編集後記